

登録番号 第 11573 号

トップジン<sup>®</sup>M 水和剤

●本剤は日本曹達が発明開発した強力な浸透性殺菌剤です。

特長： ●予防効果・治療効果とも優れており、しかもすばらしい効果が長続きし、薬害も少ないので、多くの作物病害防除剤として好適です。

トップジンは日本曹達（株）の登録商標です。

有効成分	チオファネートメチル（化管法第1種）・・・70.0%	包装	(1g×10) ×10×5
その他化管法該当成分	—		
性状	淡褐色水和性粉末 45 μm 以下	有効年限	4年
毒性	普通物 <sup>※</sup>	危険物	—

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数
みかん	そうか病	30倍	8L/10a (8mL/m <sup>2</sup> )	4～6月	5回以内	空中散布	8回以内 (塗布は3回以内、 散布、空中散布及び 無人航空機散布は 合計5回以内)
	灰色かび病 そうか病	1000～ 1500倍	200～700L/10a (200～700mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで		散布	
	貯蔵病害(軸腐病) 貯蔵病害(青かび病) 貯蔵病害(緑かび病)	2000～ 3000倍					
かんきつ(みかんを除く)	貯蔵病害(軸腐病) 貯蔵病害(青かび病) 貯蔵病害(緑かび病)	2000～ 3000倍	200～700L/10a (200～700mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	5回以内	散布	8回以内 (塗布は3回以内、 散布及び無人航空機散 布は合計5回以内)
りんご	黒星病 うどんこ病 黒点病 褐斑病	1000～ 2000倍	200～700L/10a (200～700mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	6回 以内	散布	10回以内 (塗布は3回以内、 灌注は1回以内、 散布は6回以内)
	腐らん病 モニリア病(実腐れ) 輪紋病 すす点病 すす斑病	1000～ 1500倍					
	白紋羽病	500～ 1000倍	—	休眠期～ 生育期	1回	灌注	
マルメロ	腐らん病	1000～ 1500倍	200～700L/10a (200～700mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	6回 以内	散布	9回以内 (塗布は3回以内、 散布は6回以内)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チオファネートメチル を含む農薬の 総使用回数
なし	黒星病 うどんこ病	1000～ 2000 倍	200～700L/10a (200～700mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	6 回 以内	散布	11 回以内 (塗布は3回以内、 休眠期の散布は 1回以内、 灌注は1回以内、 生育期の散布は 6回以内)
	腐らん病	1000 倍					
	輪紋病 心腐れ症(胴枯病菌) 胴枯病	1000～ 1500 倍					
	白紋羽病	500～ 1000 倍	-	休眠期	1 回	灌注	
かりん	腐らん病	1000～ 1500 倍	200～700L/10a (200～700mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	6 回 以内	散布	9 回以内 (塗布は3回以内、 散布は6回以内)
かき	うどんこ病 炭疽病 落葉病 黒星落葉病 すす点病	1000～ 1500 倍	200～700L/10a (200～700mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	6 回 以内	散布	10 回以内 (塗布は3回以内、 休眠期の散布は 1回以内、 生育期の散布は 6回以内)
もも	灰星病 黒星病 ホモプシス腐敗病	1000～ 1500 倍	200～700L/10a (200～700mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	6 回 以内	散布	10 回以内 (塗布は3回以内、 休眠期の散布は 1回以内、 生育期の散布は 6回以内)
	枝折病 うどんこ病	1000 倍					
ぶどう	灰色かび病 褐斑病 うどんこ病 黒とう病	1000～ 2000 倍	200～700L/10a (200～700mL/m <sup>2</sup> )	収穫 45 日 前まで	1 回	散布	5 回以内 (塗布は3回以内、 休眠期の散布は1回以 内、生育期の散布は1 回以内)
	晩腐病 芽枯病	1000 倍					
	苦腐病	1000～ 1500 倍					
おうとう	灰星病 せん孔病 幼果菌核病	1000～ 1500 倍	200～700L/10a (200～700mL/m <sup>2</sup> )	収穫 14 日 前まで	3 回 以内	散布	6 回以内 (塗布は3回以内、 散布は3回以内)
びわ	ごま色斑点病	800 倍	200～700L/10a (200～700mL/m <sup>2</sup> )	収穫 14 日 前まで	3 回 以内	散布	7 回以内 (塗布は3回以内、 散布は3回以内、 灌注は1回以内)
	灰斑病	800～ 1000 倍					
	白紋羽病	300～ 500 倍	-	収穫後 (7月上旬 ～9月上 旬)	1 回	灌注	

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チオファネートメチル を含む農薬の 総使用回数
小粒核果類	灰星病 環紋葉枯病 葉炭疽病 黒星病 黒粒枝枯病	1000～ 1500 倍	200～700L/10a (200～700mL/m <sup>2</sup> )	収穫 21 日 前まで	3 回 以内	散布	すももは 6 回以内 (塗布は 3 回以内、 休眠期の散布は 1 回以内、 生育期の散布は 3 回以内)、 その他の小粒核果類は 6 回以内 (塗布は 3 回以内、 散布は 3 回以内)
いちじく	黒葉枯病	1000 倍	200～700L/10a (200～700mL/m <sup>2</sup> )	収穫 7 日前 まで	5 回 以内	散布	14 回以内 (塗布は 3 回以内、 灌注は 6 回以内、 散布は 5 回以内)
	黒かび病 そうか病	1000～ 1500 倍					
	株枯病	500 倍	1～10L/株	収穫前日 まで	6 回 以内	灌注	
キウイフルーツ	果実軟腐病	1000 倍	200～700L/10a (200～700mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	5 回 以内	散布	8 回以内 (塗布は 3 回以内、 散布は 5 回以内)
あけび (果実)	うどんこ病	1000 倍	200～700L/10a (200～700mL/m <sup>2</sup> )	収穫 7 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
オリーブ	梢枯病	1000 倍	200～700L/10a (200～700mL/m <sup>2</sup> )	収穫 30 日 前まで	2 回 以内	散布	5 回以内 (塗布は 3 回以内、 散布は 2 回以内)
くり	実炭疽病	1000～ 1500 倍	200～700L/10a (200～700mL/m <sup>2</sup> )	収穫 3 日前 まで	4 回 以内	散布	7 回以内 (散布は 4 回以内、 塗布は 3 回以内)
りんご (苗木)	白紋羽病	500 倍	-	植付前	1 回	10 分間根 部浸漬	6 回以内
なし (苗木)	白紋羽病	500 倍	-	植付前	1 回	10 分間根 部浸漬	6 回以内
もも (苗木)	白紋羽病	500 倍	-	植付前	1 回	10 分間根 部浸漬	7 回以内 (散布は 6 回以内)
桑 (苗木)	白紋羽病	500 倍	-	植付前	1 回	10 分間根 部浸漬	3 回以内
水稻	ばか苗病	300～ 500 倍	-	は種前 (浸種前又 は浸種後)	1 回	6～24 時 間種子浸 漬	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内)
		30 倍				10 分間種 子浸漬	

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チオファネートメチル を含む農薬の 総使用回数
だいず	紫斑病	種子重 量の 0.5%	-	は種前	1回	粉衣	4回以内 (種子への処理は 1回以内)
	紫斑病	1000～ 1500倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫14日 前まで	4回 以内	散布	
	菌核病	700～ 1500倍					
小麦	雪腐病	1000～ 2500倍	60～150L/10a (60～150mL/m <sup>2</sup> )	根雪前	3回以内 (出穂期 以降は2 回以内)	散布	4回以内 (種子への処理は 1回以内、 散布及び無人航空機 散布は合計3回以内、 出穂期以降は 2回以内)
	雪腐大粒菌核病	1000倍	60～150L/10a (60～150mL/m <sup>2</sup> )				
		250～ 500倍	25L/10a (25mL/m <sup>2</sup> )				
	赤かび病	250倍	25L/10a (25mL/m <sup>2</sup> )	収穫14日 前まで			
		1000～ 1500倍	60～150L/10a (60～150mL/m <sup>2</sup> )				
	うどんこ病	1000～ 2000倍	60～150L/10a (60～150mL/m <sup>2</sup> )				
眼紋病	1000倍						
麦類 (小麦を除く)	雪腐病	1000～ 2500倍	60～150L/10a (60～150mL/m <sup>2</sup> )	根雪前	3回以内 (出穂期 以降は1 回以内)	散布	3回以内 (種子への処理は 1回以内、 出穂期以降は 1回以内)
	赤かび病	1000～ 1500倍		収穫30日 前まで			
	うどんこ病	1000～ 2000倍					
	眼紋病	1000倍					
あずき	菌核病 輪紋病 炭疽病	700～ 1000倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫14日 前まで	4回 以内	散布	5回以内 (種子への処理は 1回以内、 は種後は4回以内)
いんげんまめ	角斑病 菌核病 苗立枯病	700～ 1000倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫7日前 まで	4回 以内	散布	5回以内 (種子への処理は 1回以内、 は種後は4回以内)
	炭疽病	700～ 1500倍					
えんどうまめ	褐紋病 褐斑病 灰色かび病	1500～ 2000倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫7日前 まで	4回 以内	散布	5回以内 (種子への処理は 1回以内、 は種後は4回以内)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チオファネートメチル を含む農薬の 総使用回数
実えんどう	褐紋病 褐斑病 灰色かび病	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 は種後は 3 回以内)
さやえんどう	褐紋病 褐斑病 灰色かび病	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 は種後は 3 回以内)
えだまめ	菌核病	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 7 日前 まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 は種後は 3 回以内)
らっかせい	褐斑病 黒渋病 灰色かび病	1500～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 7 日前 まで	4 回 以内	散布	5 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 は種後は 4 回以内)
	そうか病 茎腐病	1500 倍					
やまのいも	葉渋病 炭疽病	800 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 7 日前 まで	5 回 以内	散布	5 回以内
やまのいも (むかご)	葉渋病 炭疽病	800 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 45 日 前まで	5 回 以内	散布	5 回以内
ばれいしょ	菌核病	1000～ 1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 7 日前 まで	5 回 以内	散布	5 回以内 (種いもへの処理は 1 回以内)
かんしょ	黒斑病	200～ 500 倍	-	植付前	1 回	20～30 分 間種いも 又は苗茎 部浸漬	1 回
	基腐病			貯蔵前～ 伏せ込み前		30 分間採 苗用種い も浸漬	
さといも	黒斑病	200～ 500 倍	-	植付前	1 回	20～30 分 間種いも 浸漬	1 回
さといも(葉 柄)	黒斑病	200～ 500 倍	-	植付前	1 回	20～30 分 間種いも 浸漬	1 回
キャベツ	根朽病 株腐病	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 3 日前 まで	2 回 以内	散布	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)
	菌核病	1000～ 1500 倍					

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チオファネートメチル を含む農薬の 総使用回数
はくさい	白斑病 炭疽病	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 7 日前 まで	2 回 以内	散布	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)
	菌核病	1500～ 2000 倍					
カリフラワー	菌核病	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)
ブロッコリー	菌核病 根朽病	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 14 日 前まで	2 回 以内	散布	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)
非結球レタス	菌核病 灰色かび病	1500～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 21 日 前まで	2 回 以内	散布	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)
せり	葉枯病	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 14 日 前まで	2 回 以内	散布	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)
食用べにばな (花)	炭疽病	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 14 日 前まで	2 回 以内	散布	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は 種後は 2 回以内)
食用ぎく	褐斑病	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 28 日 前まで	2 回 以内	散布	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)
セリ	斑点病	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 60 日 前まで	2 回 以内	散布	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)
みつば	菌核病	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 14 日 前まで ただし、伏 せ込み栽培 は伏せ込み 前まで	2 回 以内	散布	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)
みしまさいこ	炭疽病	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 30 日 前まで	2 回 以内	散布	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)
食用ゆり	鱗茎さび症	50 倍	-	植付前	1 回	球根瞬間 浸漬	1 回

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チオファネートメチル を含む農薬の 総使用回数
レタス	菌核病 灰色かび病	1500～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫7日前 まで	2回 以内	散布	4回以内 (種子への処理は 1回以内、 灌注は1回以内、 散布は2回以内)
	すそ枯病	1500 倍					
	ビッグベイン病 菌核病	1500 倍	1.5L/m <sup>2</sup>	収穫45日 前まで	1回	灌注	
にら	白斑葉枯病 乾腐病	1000 倍	3L/m <sup>2</sup>	収穫21日 前 まで	1回	灌注	2回以内 (種子への処理は 1回以内、 は種後は1回以内)
メロン	つる枯病 陥没病	1500～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	3回 以内	散布	5回以内 (種子への処理は 1回以内、 塗布は1回以内、 散布は3回以内)
かぼちゃ	白斑病	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	5回 以内	散布	6回以内 (種子への処理は 1回以内、 は種後は5回以内)
すいか	炭疽病 菌核病	1500～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	5回 以内	散布	6回以内 (種子への処理は 1回以内、 は種後は5回以内)
きゅうり	菌核病 黒星病 炭疽病 うどんこ病 灰色かび病 つる枯病	1500～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	5回 以内	散布	6回以内 (種子への処理は 1回以内、 は種後は5回以内)
うり類 (漬物用)	炭疽病 うどんこ病 灰色かび病 つる枯病	1500～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	5回 以内	散布	6回以内 (種子への処理は 1回以内、 は種後は5回以内)
にがうり	炭疽病 斑点病	1500～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	5回 以内	散布	6回以内 (種子への処理は 1回以内、 は種後は5回以内)
トマト	葉かび病 灰色かび病 菌核病	1500～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	5回 以内	散布	6回以内 (種子への処理は 1回以内、 は種後は5回以内)
ミニトマト	葉かび病 灰色かび病 菌核病	1500～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	5回 以内	散布	6回以内 (種子への処理は 1回以内、 は種後は5回以内)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チオファネートメチル を含む農薬の 総使用回数
なす	黒枯病 灰色かび病 菌核病	1500～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	5 回 以内	散布	6 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 は種後は 5 回以内)
アスパラガス	茎枯病 立枯病	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫開始 7 日前まで	5 回 以内	散布	6 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 は種後は 5 回以内)
てんさい	褐斑病	2000～ 3000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 7 日前 まで	5 回 以内	散布	5 回以内
ピーマン	黒枯病	4000～ 6000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 は種後は 3 回以内)
ズッキーニ	うどんこ病	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 は種後は 3 回以内)
オクラ	葉すす病	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 は種後は 3 回以内)
いちご	うどんこ病	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫開始 21 日前 まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 は種後は 3 回以内)
		1000 倍	-	株冷蔵栽培 の株冷蔵前		5 分間株 浸漬	
	萎黄病	300～ 500 倍	-	仮植前		1 時間苗 根部浸漬	
			3L/m <sup>2</sup>	仮植時及び 仮植栽培期		灌注	
たまねぎ	小菌核病	500～ 1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	6 回以内 (但し定 植後は 5 回以内)	散布	7 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 苗根部浸漬は 1 回以内、 無人航空機散布は 3 回以内、 散布は 5 回以内)
	灰色腐敗病	500～ 1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで		散布	
		500 倍	-	定植直前		5 分間苗 根部浸漬	



作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チオファネートメチル を含む農薬の 総使用回数		
ねぎ	黒腐菌核病	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	5 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 苗根部浸漬及び苗床 灌注は合計 1 回以内、 散布及び株元散布は 合計 3 回以内)		
		250 倍	チェーンポット 1 冊 (30×60cm、土壌 量約 5L) 当り 0.5～1L	定植直前	1 回	苗床灌注			
	小菌核病	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布			
	小菌核腐敗病	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 7 日前 まで	定植直前	1 回		苗床灌注	
		250 倍	チェーンポット 1 冊 (30×60cm、土壌 量約 5L) 当り 0.5～1L	3 分間苗 根部浸漬					
		20 倍	-						30 分間苗 根部浸漬
		200 倍	-						
	萎凋病	250 倍	チェーンポット 1 冊 (30×60cm、土壌 量約 5L) 当り 0.5～1L		定植直前	1 回		苗床灌注	
		20 倍	-	3 分間苗 根部浸漬					
		200 倍	-	30 分間苗 根部浸漬					
たらのき	芽枯症	2000 倍	0.1～0.3L/m <sup>2</sup>	伏せ込み後 萌芽前 但 し、収穫 21 日前まで	1 回	駒木散布	3 回以内 (伏せ込み前は 2 回以内、 伏せ込み後は 1 回以内)		
	そうか病	1500 倍	200～700L/10a (200～700mL/m <sup>2</sup> )	伏せ込み前 但し、収穫 60 日前ま で	2 回 以内	散布			
らっきょう	乾腐病	1000 倍	700mL/m <sup>2</sup> (700mL/m <sup>2</sup> )	収穫 7 日前 まで	3 回 以内	株元灌注	3 回以内		
ししとう	黒枯病	10000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内		
れんこん	褐斑病	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内		

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チオファネートメチル を含む農薬の 総使用回数
葉たまねぎ	黒点葉枯病	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 14 日 前まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (種子への処理は 1 回以内、 は種後は 3 回以内)
甘草	株枯病	200 倍	-	植付前	1 回	30 分間苗 浸漬	1 回
しょうが	いもち病 白星病	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 7 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
なたね	菌核病	1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	収穫 21 日 前まで	3 回 以内 (開花後 は 2 回 以内)	散布	3 回以内 (開花後は 2 回以内)
	雪腐菌核病			根雪前			
茶	炭疽病 白星病 褐色円星病 輪斑病	1500～ 2000 倍	200～400L/10a (200～400mL/m <sup>2</sup> )	摘採 7 日前 まで	1 回	散布	1 回
	黒葉腐病	1500 倍					
まめ科牧草	菌核病	2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	根雪前	1 回	散布	1 回
いね科牧草	雪腐大粒菌核病	1500～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	根雪前	2 回 以内	散布	2 回以内
ばら	うどんこ病 黒星病	1500～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	-	5 回 以内	散布	5 回以内
シクラメン	灰色かび病	1500～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	-	5 回 以内	散布	5 回以内
ゆり	葉枯病 茎腐病	1500～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	-	5 回 以内	散布	5 回以内
きく	褐斑病	1500～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	-	5 回 以内	散布	5 回以内
さくらそう	灰色かび病	1500～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	-	5 回 以内	散布	5 回以内
カーネーシ ョン	芽腐病	1500～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	-	5 回 以内	散布	5 回以内
けいとう	茎腐病 輪紋病	1500～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	-	5 回 以内	散布	5 回以内
ほおずき	半身萎凋病	1500～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	-	5 回 以内	散布	5 回以内
きんせんか	半身萎凋病	1500～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	-	5 回 以内	散布	5 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チオファネートメチル を含む農薬の 総使用回数
りんどう	花腐菌核病	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	-	5 回 以内	散布	5 回以内
チューリップ	球根腐敗病	球根重 量の 0.1%	-	植付前又は 貯蔵前	1 回	球根 粉衣	5 回以内
べにばな	炭疽病	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	-	2 回 以内	散布	5 回以内
観賞用アスパ ラガス	茎枯病	500～ 1000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	-	5 回 以内	散布	5 回以内
花き類・観葉植 物(トルコギキ ョウウ除く)	菌核病	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	-	5 回 以内	散布	5 回以内
トルコギキョ ウ	菌核病 斑点病	1500 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	-	5 回 以内	散布	5 回以内
樹木類	炭疽病	1000～ 2000 倍	200～700L/10a (200～700mL/m <sup>2</sup> )	発病初期	5 回 以内	散布	5 回以内
	褐斑病 (つつじ類)	1000～ 1500 倍					
	幼果菌核病 (さくら)	1000～ 1500 倍					
	うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症(シュードサ ーコスポラ菌) 紫かび病 (かし) 黒点病 (じんちょう げ) 褐斑病 (ぼけ) マルヅニナ落葉病 (ポプラ) 枝枯病 (いぬつげ) 赤枯病 (すぎ)	1000 倍					
たばこ (苗床)	腰折病	1000～ 2000 倍	2L/m <sup>2</sup> (2mL/m <sup>2</sup> )	苗床期	2 回 以内	散布	2 回以内
	黒根病	1000 倍					
桑	裏うどんこ病 汚葉病	1000～ 2000 倍	100～300L/10a (100～300mL/m <sup>2</sup> )	-	3 回 以内	散布	3 回以内
	輪斑病	1000～ 1500 倍					

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 水溶性内袋入りの製剤を使用する場合には、次の事項に注意すること。
  - 1) 内袋はぬれた手で触れないこと。
  - 2) 外袋の開封後は一度に使い切ることが望ましい。やむを得ず保管する場合でも、できるだけ速やかに使い切ること。
  - 3) 薬液の調製は容器内に所定量の水3分の1程度を入れた後、必要量の内袋を開封せずそのまま容器に投入する。その後容器内に水を定量まで加えた後よく攪拌すること。
- (3) ボルドー液との混用はさけること。
- (4) かんきつの貯蔵病害防除に使用する場合には、青かび病、緑かび病、軸腐病、黒斑病、灰色かび病には有効だが、黒腐病には効果が劣るので黒腐病防除が主体の場合には使用しないこと。また、収穫前3週間以内〔かんきつ（みかんを除く）の場合には収穫前2~3週間の間〕に1回散布すると効果的である。
- (5) りんごの腐らん病防除に対する本剤の使用は生育期における病菌の感染侵入阻止を目的として散布するので生育期の通年散布とすること。
- (6) ぶどうに使用する場合、幼果期以降の散布は果粉の溶脱や果実の汚れを生じるおそれがあるので注意すること。
- (7) いちごに対して使用する場合には下記の注意を守ること。
  - 1) 萎黄病防除に使用する場合には下記の注意を守ること。
    - i) 萎黄病多発地では本剤の浸漬処理、灌注処理のみでは効果が不十分な場合もあるので、植付前には土壌くん蒸を行い、本剤処理との組合せで防除すると有効である。
    - ii) 灌注する場合は下記の注意を守ること。
      - a) 土壌の種類や条件によって効果に差が認められるので注意する。
      - b) 萎黄病は、土壌温度の高い時（20℃以上）に発生しやすいので、地温の高い仮植時期に処理すること。
      - c) 土壌条件などによっては葉色が劣ったり、多少生育抑制のみられる場合もあるが、その後の生育や収量の影響は認められていない。
    - iii) 苗根部浸漬する場合は、浸漬時間が長く（所定時間以上）になると薬害（活着不良）を生じるおそれがあるので、処理時間を厳守すること。
  - 2) うどんこ病防除に使用する場合は下記の注意を守ること。
    - i) 株浸漬する場合は下記の注意を守ること。
      - a) 株冷蔵栽培いちごの定植時に、無病苗を得るため、冷蔵前に処理するものである。うどんこ病まん延時の防除とは異なるので注意すること。
      - b) 浸漬処理薬液が葉裏まで十分付着するように薬液には展着剤を加用し、水洗した苗株を株全体がつかないように浸漬し、苗を薬液中で2~3回上下にゆすること。
      - c) 本剤処理した苗株は、水洗せずに半乾きとした後、ビニール袋に入れ、慣行に従って冷蔵すること。
      - d) 冷蔵後、定植前の処理では、効果が劣ることがあるので、必ず冷蔵前に処理すること。
    - ii) 散布する場合は、葉及び果実に汚れを生じるおそれがあるので注意すること。
- (8) いちじくに対して灌注処理する場合は次の事項に注意すること。
  - 1) 1ヶ月間隔で使用することが望ましい。
  - 2) 生育抑制などの薬害を生じるおそれがあるので、ポット栽培などの根域が抑制される栽培条件での使用はさけること。
- (9) 水稻の種子消毒に使用する場合は、下記の注意を守ること。
  - 1) 消毒後は水洗せずに浸種または播種すること。
  - 2) 浸漬処理薬液の温度はなるべく10℃以下をさけること。
  - 3) 籾と浸漬処理薬液の容量比は1:1以上とし、種籾はサラ網などの目のあらい袋を用い、薬液処理時によくゆすること。
  - 4) 低濃度（300~500倍）長時間浸漬の場合は、薬液浸漬処理中1~2回攪拌すること。
  - 5) 本剤処理を行った種子の浸種に当たっては次の注意を守ること。
    - i) 薬剤処理した種籾は少なくとも数時間は放置して風乾後浸種すること。
    - ii) 浸種は停滞水中で行うこと。
    - iii) 浴比は1:2とし、水の交換は原則として行わないこと。但し、液温が高温の場合など、酸素不足になるおそれがあるときには静かに換水すること。
  - 6) 薬剤処理した種子は、食料、飼料に使用しないよう注意すること。
- (10) れんこんに使用する場合、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (11) 麦の雪腐病防除に使用する場合、散布液量は10アール当たり100Lが標準である。なお、1回散布の場合にはなるべく根雪近くに行くと効果的である。
- (12) 小麦の少量散布で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用すること。

- (13) チューリップの球根粉衣は植付前または貯蔵前に球根 1kg に対し、本剤 1g を均一に粉衣すること。
- (14) 本剤を大型散布機で使用する場合には、各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
- (15) 本剤は、連続使用によって一部の病害に耐性菌を生じ、効果の劣った事例があるので、過度の連用をさげ、なるべく作用性の異なる他の薬剤と組み合わせて、輪番で使用する。
- (16) だいつの紫斑病に対しては、落花後～若莢期に2～3回散布すること。
- (17) だいつの紫斑病防除には種子消毒のみでは不十分なので、生育期の散布による防除と組合せて使用すること。
- (18) 果樹の白紋羽病に対し、灌注処理する場合は樹幹部周辺の土壌を木の大きさに応じて掘りあげ、根を露出させ、病根をていねいに除去したのち、所定濃度の希釈液を1本当り成木では200～300L、苗木では20～30L灌注すること。
- (19) かんしょ、さといもの種いも消毒後は水洗せず薬液が乾いてから植付けること。薬液処理した種いもは食料、飼料に使用しないこと。
- (20) アスパラガスの茎枯病の防除は収穫打ち切り後、残茎を取り除き新しく萌芽した茎を対象とすること。
- (21) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。また、桑に使用後3日間は蚕に桑葉を給餌しないこと。
- (22) ハウスなどの常温煙霧用として使用する場合は下記の注意を守ること。
  - 1) 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧すること。特に常温煙霧装置の選定及び使用に当たっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けること。
  - 2) 作業はできるだけ夕刻行い、作業終了後6時間以上密閉すること。できれば翌朝までとすること。
- (23) たばこの親床での処理は播種後10日目から1週間間隔で、子床での処理は仮植後7日目から1週間間隔で薬液を散布すること。
- (24) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (25) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (2) 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (5) 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

#### 常温煙霧の場合の注意 [ ハウスなど ]

- (1) 専用の常温煙霧機により、所定の方法で煙霧する。特に常温煙霧装置の選定及び使用に当たっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受ける。
- (2) 作業はできるだけ夕刻行い、作業終了後6時間以上、できれば翌朝まで密閉する。
- (3) 常温煙霧中はハウス内に入らない。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分に換気した後に入室する。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

水産動植物（魚類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないように注意して使用すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項

密封し、直射日光をさげ、飲食物・食器類やペットの餌と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した所に保管すること。